



特別
企画展

雅静の美

正法寺の至宝を巡る

描かれた
みほとけ

12月18日(土)▼1月16日(日)

祈りの系譜

4月24日(土)▼1月16日(日)



両面厨子入二明王像(愛染明王坐像)
南北朝時代

開山無底良韶禪師面像
南北朝時代 延文5年(1360)



開山無底良韶禪師倚像
明徳4年(1393)

みちのくの禅道場に伝わる 風格と寺宝

奥州市水沢黒石町に所在する曹洞宗の古刹、大梅拈華山圓通正法寺は、南北朝時代の貞和4年(1348)、總持寺二代、峨山韶碩禪師の高弟であった無底良韶禪師によって開山しました。

無底禪師の法統を嗣いだ月泉良印禪師は正法寺の血脈を整え、数多くの門弟を育成して奥羽両国に教勢を拡大。多くの信奉者を得て正法寺一門は大きく発展しました。この間に總持寺峨山禪師より認可を得るなど、正法寺は永平寺、總持寺と並んで「第三の本山」の格式となり、その勢いは東北を中心に関東・関西へもおよんだと伝えられています。

「第三の本山」の格式は江戸時代初期に幕府の政策によって失われ、正法寺は總持寺の直末筆頭寺院となりますが、由緒ある古寺として仙台藩から寺領を得て、法堂、仏殿、山門は藩によって修繕されるなど格別の庇護を受けていました。

日本一の茅葺屋根を誇る法堂の大建築に代表される伽藍には、秘佛本尊の如意輪觀世音菩薩をはじめ、その歴史と格式を裏付ける尊像・寺宝・文化財が数多く安置されています。

本展では、通常非公開となっている正法寺の寺宝を公開。東北地方における宗教・文化形成に果たした正法寺の大きな役割を通じて、郷土の歴史の一端に触れて頂ければ幸いです。

【時間】9:00-16:00

【休館日】1月1日

【入館料】一般300円 / 高校生200円 / 小中学生150円

※未就学児童は無料

※「奥州市民パスポート」の提示で奥州市民は入館半額

えさし郷土文化館

Esashi Native District Cultural Museum

岩手県奥州市江刺岩谷堂字小名丸102-1

TEL 0197-31-1600 <http://www.esashi-iwate.gr.jp/bunka>

共催 奥州市教育委員会

特別協力 大梅拈華山圓通正法寺